

平成18年度 損害保険会社決算概況

1. 平成18年度決算の特徴点

平成18年度決算の特徴として、次の2点を挙げることができます。

第1点は、正味収入保険料が景気回復を反映し、昨年度に引続き増収となり、0.7%の堅調な伸びを示していることです。

第2点は、自然災害による保険金支払の要素が増加したことです。

前年度と比較し、自然災害に伴う保険金支払が増加したことにより、平成18年度は、保険引受利益が悪化し、前年度の159億円の黒字から一転して、1,047億円の赤字となりました。その結果、経常利益で14.2%の減益、当期純利益で18.0%の減益となりました。

2. 決算概況

経常収益は、保険引受収益が8兆9,053億円、資産運用収益が6,962億円、その他経常収益が388億円となった結果、前年度比380億円(0.4%)増収の9兆6,403億円となりました。

一方、経常費用は、前年度比1,068億円(1.2%)増の9兆2,256億円となりました。

その結果、経常利益は、前年度の4,836億円から688億円(14.2%)減益の4,147億円となり、税引後当期純利益も、前年度の3,063億円から553億円(18.0%)減益の2,510億円となりました。

3. 保険引受の概況

(1) 正味収入保険料

正味収入保険料は、主力の自動車保険が増収に転じたことに加え、海上保険及びその他の保険の伸びが寄与し、前年度比517億円(0.7%)増の7兆5,372億円となりました。

* 正味収入保険料 = 元受正味保険料 + 受再正味保険料 - 出再正味保険料

(2) 正味支払保険金

正味支払保険金は、前年度と比較し、自然災害による保険金支払いが増加したことにより、前年度比1,265億円(3.0%)増の4兆3,374億円となりました。

その結果、損害率は、前年度の60.6%から62.0%へ1.4ポイント悪化しました。

* 正味支払保険金 = 元受正味保険金 + 受再正味保険金 - 回収再保険金

(3) 保険引受に係る「営業費及び一般管理費」

保険引受に係る「営業費及び一般管理費」は、前年度に比べ185億円(1.6%)

増の 1 兆 1,611 億円となり、事業費率は前年度の 32.1%から 0.1 ポイント微増の 32.2%となりました。

(4) 保険引受利益

保険引受利益は、正味支払保険金の増加した影響に加え、営業費及び一般管理費や損害調査費が増加した結果、昨年度 159 億円から減益となり、1,047 億円の赤字となりました。

* 保険引受利益 = 保険引受収益 - 保険引受費用 - 保険引受に係る営業費及び一般管理費 ± その他収支

4. 資産並びに資産運用の概況

平成 18 年度末における総資産は、株式市場が引続き好調であり、前年度末の 36 兆 6,097 億円から 1.8%増の 37 兆 2,747 億円となりました。

また、利息及び配当金収入は、企業業績の回復・改善により配当金収入が増加したことなどから、前年度比 14.9%増の 6,443 億円となりました。

5. ソルベンシ - ・マ - ジン比率

ソルベンシ - ・マ - ジン比率については、全社とも 200%を大幅に超えており、健全性については問題ない状況にあります。

協会加盟会社 (22社)

あいおい損保、朝日火災、共栄火災、ジェイアイ、スミセイ損保、セコム損害保険、セゾン自動車火災、ソニー損保、損保ジャパン、そんぽ24、大同火災、東京海上日動、トア再保険、日新火災、ニッセイ同和損保、日本興亜損保、日本地震、日立キャピタル損保、富士火災、三井住友海上、三井ダイレクト、明治安田損保

損害保険会社の平成18年度決算概況

